

～交流と創造の学びの場としての地方都市商店街へ～

令和3年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：多世代参加型の商店街地図創作・活用による学びと交流を広げる地域再生

研究代表者：総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者：洋野町役場企画課

研究メンバー：麦沢紅美（洋野町役場企画課・地域おこし協力隊）

技術キーワード：洋野町、地方商店街、学びの場、交流と創造



▼研究の概要（背景・目標）

本県最北のまち洋野町は旧種市町・大野村の合併からなるが、全国同様に少子高齢化、過疎化が課題である。その中で、地理的にも海（種市）と山（大野）の資源・魅力を活かしたまちづくりが進み始めている。また少子化の現在だが、地域内外の若い世代の自主的活動も少しずつ生まれてきている。こうした町内の機運を捉え、ここでは合併前旧町村の中心である商店街に着目する。この商店街を人々の学びと交流・創造の場と位置づけ地域再生に向けた機運形成を目指す。その上で商店街を舞台にして地域内外・多世代の交流・創作活動を計画したが、コロナ禍に鑑み、今回は地域に潜在・顕在する資源の再発見・検討を行うと共に、商店街のオリジナリティある複数拠点を核としながら、そのもと情報発信、複数拠点間の連携効果などから町内再生を目指した。

▼研究の内容（方法・経過）

洋野町を構成する旧種市町・大野村の両地区をはじめとした町の資源の再認識・発見を行いつつ、その活用を地域内外の多様な視点から検討し合う場を学びの場として実践・創造していくことを狙っていた。今回は主要メンバーを中心とした地域資源の再認識・発見と共に個別に各商店を訪問しながら店の特徴などを収集し、今後の交流活動に活かすための情報整理とその活用基盤づくりを試みた。また多地域交流の学びの拠点づくりという本研究の趣旨に類似する活動が、地域おこし協力隊などの活動を通じて生成しており、その知見から学ぶと共に活用・連携方策を検討した。その他、今後の活動に向けた示唆・資源として各地先進事例の情報収集と検討を行った。

今回コロナの影響で多人数で集まる作業は出来なかったが、こうした情報収集作業そのものが店主・地域各人との出会いと学びの貴重な面になった。その成果を現在マップとして作成中である。今年度には完成活用予定で、今回出会った方々とさらなる学びを展開していきたい。



一見閑散とした商店街だが店舗内に足を踏み入れると元気な店主・住民と気さくな会話が楽しめる。こうしたお年寄り・住民の存在も重要である。

懐かしい置物や道具等、現代でこそ注目される品々が実は各所にあることに改めて気づく。活用し得る貴重な素材である。



店舗減少から商店街の形は小さくなったが、歴史・文化性豊かな素材が潜在顕在している。それら資源と町に対する店主の思いは強く、貴重な示唆と力になる。

もと地域おこし協力隊メンバーも空き家を改修して独自の店舗運営とコミュニティ活動を展開されていた。こうした人材や活動も商店街の新たな魅力と資源だ。



商店街での取材には学生も参加させてもらった。店主にとっても学生との会話は新鮮だったようで店主と学生が意気投合するような場面もあった。こうした取材も学びと交流の場の一つになった。



作成中のマップイメージ

収集した店主の声、地域の多様な資源を表現してマップを作成中。メンバーの諸事情で作業が滞っていたが近く完成し、今後活用予定である。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

コロナなどから予定通りいかないこともあったが、少人数で取材を行うことや、まちづくりに関するワークショップを開催するなど、できることを見つけて、集中して活動することができた。商店街の取材では、気づけば1時間も話しをするくらい、店主さんと会話が盛り上がる場面が何回もあった。店主さんの商品に対する愛情や商売にける熱意、お客さんのことを考えた創意工夫など、たくさんを知ることができ、地域に密着した商店街の良さを再発見することとなった。地域に密着した、この店主さんとの情報交換は、商店街の魅力のひとつだと感じる事ができた。最後にご協力いただいた皆様に深く感謝したい。